

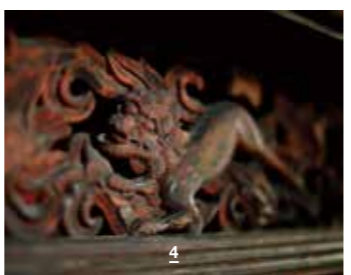


📍建仁寺

時を経た“本物”に触れ  
心に染みる時間を過ごす

臨 済宗建仁寺派の大本山「建仁寺」の創建は建仁2(1202)年。京都最古の禅寺として、その教えを伝えてきました。創建800年を記念し、故小泉淳作画伯によって描かれた法堂の「双龍図」は迫力あるもの。「双龍図も素晴らしいですが、その下に置かれる朱塗の須弥壇も見てほしい!手摺の支えがぶにっとなみたくて面白い。ちょっとマニアックでしょうか」と梶川さん。お寺もアートや工芸の目線で見ると違って見えると言います。苔とモミジが美しい方丈の「潮音庭」で過ごす時間がさらに心を潤し、新しい発想や明日への力がわいてくるのだそうです。

1 法堂の「双龍図」。畳 108 畳にも及ぶ大作。 2 方丈は室町時代の建物。前庭は枯山水様式の石庭「大雄苑」があり、この後庭は「潮音庭」。「潮音庭」は180度すべてが表という庭。モミジは、初夏は青々として清々しく、秋になると赤く染まって、また別の美しさを見せてくれる。 3 方丈に掛かる「○△□」の書。 4 双龍図の下に置かれた朱塗の須弥壇。



DATA  
 京都府東山区小松町  
 ☎075・561・0190  
 拝10:00~16:30  
 無休 料500円

文 梶川由紀

「15年かけて生育した漆の木は2500Cの樹液を生み出すと死ぬ」と、知ったのは二年前のこと。まさに命をいただく漆という素材に惹かれ、自身のブランドの商品のパッケージのタグやカプセルに漆を使いました。それからマイブーム到来。仏教と漆文化の因縁も面白く、今まで当たり前前に神社仏閣で目にしていた朱や玄が突如、輝きだしました。そんな視点も加わった私のアートホッピング。日本の手仕事の美しさを再発見し、新しいものと古いものの融合に思わず唸る場面もありました。オープンしたばかりのギャラリー「呼吸」の壁は大正時代そのままの「呼吸」のもの。この呼応を楽しむこ

とができます。店主は私の美容師さんです。そして、念願叶って訪れた漆店では、守り継がれる漆の生成法と共に、店主プロデュースによる漆のサーフボードを見せていただきました。スフェラではオーナー自らが丹波で仕入れた枝ものを花を抱えて登場される場面に遭遇しました。思いがけないバランスや落差が、京都の魅力の一つですね。人の思いや願いから生まれた新しいものが、歴史や伝統がそここに息づく街にいい具合に交じっています。時に意表を突かれることもあり。それがまた面白い!建仁寺では、法堂の朱塗を堪能した後、新緑が眩しい「潮音庭」へ。四方正面のお庭は、そ

の角をまた正面になるように重ねていくと渦になること、音には自分と向き合う意があると教わりました。「ころころするから」ころころって言うんですよ。変わってもいいものなんです」と。思わず呪文のように言葉を繰り返しながら、お庭をぐるりと一周、しみ入る時間でした。最後に何必館・京都現代美術館へ。私がキュレーターを務める場所です。自分の居場所があることに感謝しながらほっと一息。京都には自分のルーツや興味、心を見つめ直すきっかけが転がっているのかもしれない。そんなアンテナを立てて、自由に大らかに京都を楽しんでください。



可必館ギャラリスト梶川由紀さんが案内  
“美”が溢れる古都でアートホッピング!

古民家を改装したkokyu\_kyoto 1階のギャラリー。ヘアサロンも経営するオーナーの白鳥さんも訪ね、展示について相談。



梶川由紀さん

何必館・京都現代美術館キュレーター  
 パリ写真美術館の設立に日本人キュレーターとして携わる。帰国後、何必館・京都現代美術館にて写真部門を立ち上げ、国内外の展覧会企画や写真集の編集、執筆活動を行う。2022年自身のブランド「THE EDIT KYOTO」を立ち上げた。

📍kokyu\_kyoto

最新と再生を折りませた  
個性派古物店



1 古民家の壁は塗りなおさずそのまま。風合いある壁に「the bag」が展示される。 2 the capsuleは、漆作家・戸田春子さんが作り続けるメッセージカプセルを土台にした梶川さんとのコラボ作品。錫製で外側が内側に朱色の漆塗が施されたもの。 3 27cm四方の「the bag」は斜め掛けにすると体にすっと馴染む。持ち手が15cm長いものもあり。「inger」2万4200円。

骨 董の街・寺町通りからすぐ、二条通に面した複合店舗。1階は、古くから人の傍らにあった道具や調度、布などの再生作品を展示。2階は、ヘッドスパ専門サロンになっています。ヘアサロンや現代美術ギャラリーも経営する店主の白鳥秀則さんは、「人と人、人とモノが繋がる場所になれば」と願っているそう。白鳥さんのサロンに通う梶川さんも「白鳥さんのモノを見る目の適確さや面白さに惹かれ、ここで展示会を開こうと決めました」と言います。6月に開催予定の展示会は、「the bag」など「THE EDIT KYOTO」の作品を手に取り体感できる機会です。



DATA  
 京都府中京区布袋屋町509-2  
 ☎075・256・1005  
 営業11:00~19:00 火、水曜  
 @kokyu\_kyoto\_gallery





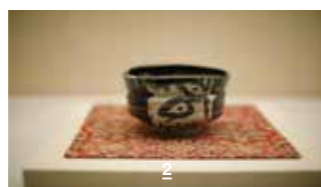
「北欧、光の調べ ペンティ・サマラッティ展」は6月12日まで。動物たちと話せるのでは?と思わせる写真に驚嘆。

◆何必館

動物と自然を愛する  
北欧の写真家展を開催

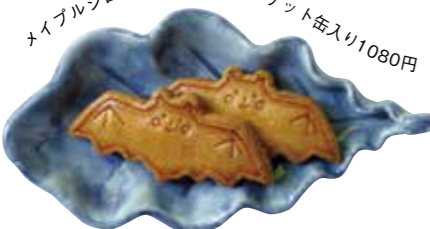
建 仁寺から歩いて5分。八坂神社など京名所からも近い祇園四条にある美術館。近・現代の美術作品を中心に企画展を開催します。現在開催中の「ペンティ・サマラッティ展」は、日本では初めて。動物たちの可愛い表情や自然の力を感じさせられる風景写真など約70点。ペンティ氏が故郷フィンランドをはじめ、世界中を旅して動物や自然風景を撮影した作品を展示します。「フィンランドが誇る、現代写真家の視線を味わってください」と梶川さん。地階の工芸美術館には、北大路魯山人作品の常設展示もあるので鑑賞を。

1 展示は5階にも続く。この階には、「光の庭」や「茶室」もあり、梶川さんのお気に入りのフロア。その端正な美しさに心癒されます。2 路魯山人の作品が一堂に介す地下は見逃すことできない場所。書家に始まり、陶芸、料理、編集なんでも一流だった魯山人のすごさが垣間見れる。



DATA  
 ①京都市東山区祇園町北側271  
 ☎075-525-1311  
 ②10:00~18:00(入館は閉館30分前まで)  
 料1000円  
 ③月曜(夏季、年末年始、展覧会準備期間は閉館)

マイブルシロップ味の編蝠ビスケット缶入り1080円



DATA  
 ①京都市左京区吉田下大路町59-1  
 ☎075-771-6125  
 ②11:00~18:00(17:30L.O.)  
 ③月・火・水曜



ブレンドコーヒーとケーキのセット1300円

◆吉田山荘 カフェ真古館  
由緒ある宮様の別邸跡  
緑に囲まれた喫茶館

吉 田山荘の建物は、昭和7年に東伏見宮の別邸として建設。「カフェ真古館」は、その庭に立つ別棟を、2007年に昭和初期風に改装したもの。バルコニーもあり、和洋が組み合わさった美しいカフェです。ここでいただけるのは、カカオ100%のチョコレートを使ったケーキ。「京都らしさもあり隠れ家的で落ち着きます」と梶川さんも、しばしば足を運ぶそう。幸運を呼ぶ編蝠をかたどったサクサクの編蝠ビスケットは缶入りをお土産に。

心が穏やかになる  
隠れ家カフェ

◆御所DELINO  
町家イタリアンで  
お値打ちランチを!

御 所東側、町家を改装したイタリアン「御所DELINO」。「テイクアウトのデリカやパニーニランチに挑戦したかった」とオーナーの岩井永吉さん。京都のミシュラン獲得店などで腕を磨いた須藤直道さんをシェフに迎え、2020年11月に開業しました。庭が美しいダイニングで味わえるのは、たっぷりのサラダと前菜、パニーニかパスタを選ぶランチ。「居心地がよいので好き。パニーニとパスタ、そしてワイン! 最高のランチです」と梶川さん。

パニーニはスモークサーモンなど4種から2種を選んで。



スープ、サラダと前菜、パニーニ、ドリンクのランチセットA 1800円

DATA  
 ①京都市上京区信當町304-4  
 ☎075-286-7401  
 ②11:30~14:00、17:30~21:00(いずれもL.O.)  
 ③デリ11:30~20:00  
 ④木曜



DATA  
 ①京都市東山区縄手通り新橋上ル弁財天町17  
 ☎075-532-1105  
 ②11:00~19:00  
 ③水曜

◆スフェラビル

伝統と革新が融合した  
唯一無二のプロダクト

「伝統の技を守りながら日常使いできるプロダクトに出合えます。暮らしに取り入れたいものが見つかるかも!」と梶川さん。スフェラは、創設者でクリエイティブ・ディレクターの眞城成男さんが、2001年にスタートしたブランド。国内の約70工房に依頼して作る手作りのプロダクトを販売します。木製のクーラーボックスや銅の花入れ、鍛金製のコーヒーケトルと、素材感やデザイン性を重視した、ここにしかない品が並びます。



1 鍛金技法で作られた銅製品。コーヒーケトル6万7300円ほか。2 茶室の水屋を手がける職人が作っているという花器00万0000円〜。製のシェーカーボックス1万5000円〜など商品は多彩。



染料の調合具合で色目が細かに変化する漆。「ニスにビタリと合わせるのが仕事」と専務取締役の梶卓也さん。

◆提浅吉漆店

用途に合わせて調合する  
高水準の技術で漆を継ぐ

創 業明治42(1909)年の漆店。中国をメインに国内外の産地より漆を仕入れ、ろ過した後用途に合わせて精製し販売します。その用途は寺社仏閣の建材や仏具、一般用の家具や調度、漆器とさまざま。色目はもちろんのこと、気候や作業をする環境なども考え精製や調合を変えるそうです。「カプセルの制作過程でうかがい、技術の高さに驚かされました」と梶川さんも信頼する老舗です。木を護る特質のある漆をサーフボードに塗るなど新たな用途に挑戦するほか、京都洛北に漆を植樹し、国産漆の生産にも取り組んでいます。

1 ダ木製のサーフボードにも漆を塗り、強度を高めるとともに日本的な美しさを添える。漆サーフボードは受注生産で販売、19万円〜。2 漆入りの「金継ぎコフレ」は本格的に金継ぎをしたい人におすすめ。1万3500円。



DATA  
 ①京都市下京区福町540  
 ☎075-351-6279  
 ②8:50~17:30  
 ③日曜、祝日、第2,4土曜

“素晴らしい手仕事に  
出合える街と再認識”